

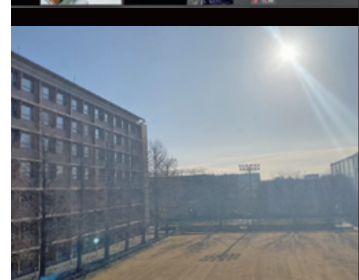


KANSAI
UNIVERSITY



Kansai University Center for Teaching & Learning

Newsletter



正しく理解される表記

話し言葉は軽い印象や、主観的な表現、受け手によって異なるため、レポートでは書き言葉を使う。

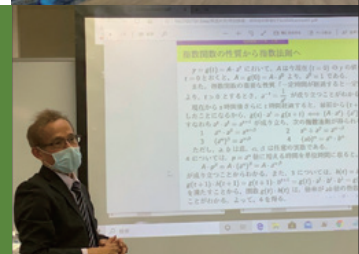
話し言葉	書き言葉
～です／～ます	～だ／～である
そして	それから／次に
～ので	
～して	
ほとんど／だいたい	
もっと	



関西大学 教育開発支援センター
ニュースレター

March 2021

vol. 35



退職時のふりかえり —アクティブラーニング、その先へ—

教育推進部教授
山本 敏幸



3月に退職するに当たり、CTLの皆さまのご厚意により、来し方を振り返る機会をいただいた。2010年に本学に赴任して以来、11年の月日の中で、皆さまと共に様々なプロジェクトで協働し、励まし合いながら過ごしてきた有意義な時間に一つの大きな区切りが訪れようとしている。

赴任時には、ニュースレターの巻頭言にて敬愛するJohn Dewey教授のヒポクラテス宣誓に言及した。ヒポクラテス宣誓とは「学問を修めた者は、その知識を自らの倫理と責任に基づいて、人類や社会のために正しく用いていくことを誓うべきである」という信念に貫かれたものである。これは高等教育機関に奉職する私たちが遵守すべきものだ。この信念に守られた学びの苑から歩み出た若者たちが、安心・安全で平和な社会を構築することができるように、知識のみならず、マインドセットをも構築できるように私たちは心を砕かなければならない。この気持ちを携えて11年間の日々を歩んできた。その中で印象

深かったものをいくつかここに紹介したい。

正課の授業では学生の主体的な学び（アクティブ・ラーニング）を尊重しながら、Global Liberal Artsを学ぶことや、交渉学の知見や学習経験などを活用しながら、地域連携によるプロダクトデザインを考案することに重きを置いてきた。具体的には、台湾・シンガポール・マレーシア・アメリカの協定校の学生たちと本学の学生が協働で学びを深めるCOIL授業（アカデミックライティング・ソーシャルアントレプレナー等）、台湾の國立中央大學のJuling Shih教授と共に、小学生・中学生・高校生を対象とした「交渉学×STEAM」の教育を関西圏と台湾において展開してきた。

この他に、本学の学生や留学生たちと協働で取り組んだ「創立130周年の祝い酒プロジェクト」も忘れ難い経験である。これは、丹波の有機農家との地域連携、学生のプロダクトデザイン、山名酒造との

産学連携を統合した一大プロジェクトだ。栽培した古代酒米「亀の尾米」を収穫して酒造りをし、Kaiser Rice Wineとしてブランド商品化し、創立130周年の式典では祝い酒として振る舞った。

最後に行く末についても書いてみたい。最近、John Dewey 教授の最後の著書「Knowing the Known」に出会った。この書ではヒポクラテス宣誓を実現するためのTrans-actional Learningの大切さについて触れられている。様々な場面での学びにヒポクラテス宣誓を実現する可能性を感じ取るマインドセットを涵養することが何より大切であるのだと、胸に深く刻み置いた。本学退職後は、Monica Sanchez-Flores 教授の提唱するTrans-actional Autopoiesisの理論を融合した教育モデルについて研究し、アクティブ・ラーニングの未来形を模索しながら、New Education Normalでの未来創造教育を実践していきたいと計画しているところだ。

活動報告

FD/SD研修

「三者(学生・教員・職員)で考える関大の未来
～大学教育のこれからを考える～」を実施しました

日程：2020年10月26日(月)、11月9日(月)、
11月30日(月)、12月7日(月)、
12月21日(月)、
2021年1月18日(月)

教育開発支援センターでは、2020年10月26日(月)～1月18日(月)の間、2020年度FD/SD研修を開催しました。本研修は、教職員そして学生が連携してこれから取り組むべき課題を発見し、社会の変革に対応しながら、時代に即した教育を展開できる能力を育成することを目的に2017年度から実施しています。

本研修は全5回で構成され、終了後には計8グループ(教職員・学生混合グループ)による最終報告会の機会を設けました。各回の講師は教育推進部の教員が担当し、それぞれの専門領域に基づく大学教育の現状や課題、今後の展望等について講演いただきました。

最終報告会は1月18日(月)に開催され、「10年後の関西大学をよりよくするために一私たちにできる教育施策・学習環境改革案」をテーマに開催しました。

研修参加者からは、「普段関わることができない教育推進部の先生方や学生と交流ができた点よかった」「今まで知らなかった教育推進部やIRの取り組みに触れることで多くの学びを得た」等の感想をいただきました。

次年度以降も内容の改善を行うことで、変化の激しい

社会をリードし、未来社会に貢献できる人材を育む研修になるよう努めていきます。

(教育開発支援室 土井健嗣)



研修の様子

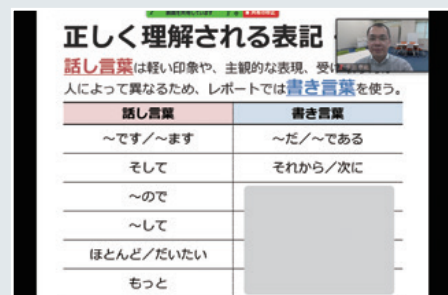
スポーツ入試入学生を対象に
「文書作成能力向上講習会」を実施しました

日程：2020年10月26日(月)、11月5日(木)、
11月16日(月)

2020年10月26日(月)、11月5日(木)及び16日(月)に、スポーツ入試で入学した1年生(全118名)を対象とした文書作成能力向上講習会を実施しました。昨年度までと同様、受講生はレポートの表記・表現や引用のルール、論理的な文章の書き方のレクチャーを受け、課題レポートを作成しました。ただし、今回はキャンパス移動や教室での三密を避けるために講習会のみZoomを用いたリアルタイムオンライン形式

で開催しました。初の遠隔講義となりましたが、受講生参加型クイズを取り入れるなど、距離を感じさせないよう工夫しました。また、課題レポート作成時にはライティングラボでのアドバイスを受けるよう指示し、個人作業に留まらないようにしました。それらの効果もあり、提出されたレポートの多くは、1年生終了時点で十分なパフォーマンスでした。2021年度も、状況を見ながら講習会を継続していく予定です。

(教育推進部特別任用助教 多田泰紘)



受講生参加型クイズの様子(イメージ)

「レポートお悩みワンポイント講座」
を実施しました

日程：2020年12月22日(火)、2021年1月15日(金)
場所：堺キャンパス SA501

ライティングラボでは、アカデミックスキルに関わるワンポイント講座(大学で学ぶ上で必要なアカデミックスキルを、昼休みの30分間で身につける授業外講座)を開催しております。このたび、2020年12月22日(火)及び2021年1月15日(金)に人間健康学部の学生を対象とした「レポートお悩みワンポイント講座」を実施しました。学生にありがちな悩みへの、具体的な対策を理解して

もらうための講座です。2020年12月22日(火)は「レポートが書き始められない!」、2021年1月15日(金)は「思ったほど、レポートで点が取れない!」をそれぞれテーマとして行いました。講座の際に収録した動画及び資料は、ライティングラボHPにアップしています。ぜひご活用ください。

(ライティングラボ アカデミック・アドバイザー 藤田里実)

「ワンポイント講座」

<https://www.kansai-u.ac.jp/ctl/labo/onepoint-advice/index.html>



ワンポイント講座のURL

学生ラーニングcaféを実施しました

日程：2020年12月23日(水)、2021年1月13日(水)

秋学期のラーニングcaféは第1回「相手を褒めてお互いを知る」、第2回「伝える瞬間を捉えよう」の2回の実施となりました。

コロナによって対面での交流が少なくなっている現状で、パソコンの画面越しでも自分が伝えたいことを上手に伝え、相手の気持ちを理解するためのコミュニケーションのあり方について、絵やロールプレイを使ってワークを行いました。どちらの企画もLAが中心となり、立案・スケジュール・当日の運営まで行い、当日は

参加者と一緒に、お互いにとって良いコミュニケーションとはなにかを共有する機会となりました。

今回は初のオンラインでのラーニングcafé実施ということで、LAにとっても手探りの部分はありましたが、オンラインと対面の両方のメリット・デメリットを考える場となり、来年度以降のラーニングcaféの実施方法の幅が広がることに繋が

りました。

(教育開発支援センター アドバイザリースタッフ
佐藤栄晃)



ラーニングカフェの様子

ラーニング・アシスタント(LA)の感想

初めてのラーニングcaféで、さらに本来とは違う形で開催するということが、不安が大きかったです。ラーニングcaféを行うための準備をしていくうちに楽しさが出てきました。その楽しさが意欲に繋がりよりよいラーニングcaféにしたい気持ちが強くなりました。そのおかげで不安というものは徐々になくなっていきました。Zoomでの開催だったので、

きただけわかりやすく伝えられるように努力しましたが、やはり伝え不足があったり回りくどい言い方になったりしたところがありました。しかしラーニングcafé自体はすごくできて良かったです。この反省を次に活かしていきたいと思っています。

(文学部2年 野上華奈)

Zoomでの開催ということで、何ができるか、何をすべきか頭を抱えました。悩んだ末、会話、伝えることをこのコロナ禍だからこそ取り上げ、ワークにしようと考えました。ラーニングcaféを通して、ワークにおいてもそうですが、チームメン

バーとの会議においても伝えることの難しさを痛感しました。伝えることは自分の人生の課題となりそうです。

(社会学部2年 吉村友助)

台湾・玄奘大學のFD・SD研修を実施しました

日程：2020年11月25日(水)、12月9日(水)

本学の協定校である玄奘大學の三者協働型FD・SD研修は、2017年度より始まり、2020年度は「ニューノーマル時代の教育のイノベーション－フューチャースキルによる新しい教育モデルの創造－」をテーマに、2020年11月25日(水)及び12月9日(水)に実施しました。

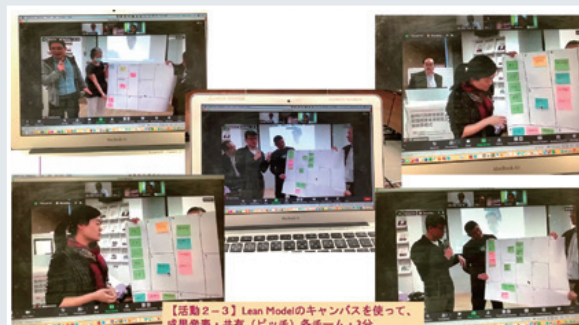
企画・運営は池田辰彰氏(玄奘大學應用日語学系教授)と郭淑令氏(教學發展中心教師組組長・助理教授)と山本敏幸(関西大学教育推進部教授)が担い、研修当日には、奥貫麻紀(教育開発支援センター研究員)も講師として加わりまし

た。20名、第2回目は32名の参加がありました。

不確定な未来社会を生きることになる学生たちにとって必須となるフューチャースキルを涵養する教育パラダイムについて考え、未来の教育を構想するインタラクティブな研修を行いました。大学で学ぶ学生たちが「未来社会を生きる未来の自分たち」とWin-Winな関係が持てるように未来の教育をデザインすることを目標としました。lean canvasを採

用したことにより、教員たちのモチベーションが上がり、教育の未来創造に向けた有意義な研修となりました。

(教育推進部教授 山本敏幸)



最終成果発表

活動報告

文理融合のクリティカルシンキングのワークショップを開催しました

CTLでは、これまでに大学生を対象に「交渉学×STEAM」での学びについて考える機会がありませんでした。そこで、その基礎となるクリティカルシンキングスキルを涵養するカリキュラムをデザインし、2020年11月から2021年1月にかけて、本学のLAや企画に興味を示した学生を対象に全5回で模擬講習を実施しました。今回のテーマは、コロナ禍の社会についてです。高校までに学んだ文理融合の基礎数学のスキル・Pythonによる数値計算・シミュレーションによる可視化をシンキングツールとして、PBLによる学習活動を行いました。また、社会人基礎力も含め、社会の様々な問題解決に活用することを目標にして、学びを

深め、ものごとの本質を見極め、未来社会に向けてどう対処すべきかを考えました。

厚生労働省が発信するコロナウイルス感染者の情報を、信憑性のある情報として利用しました。基礎数学を基に感染モデル（SIRモデル）をシミュレーションモデルとして、クリティカルシンキングの学習プロセスに援用しました。感染モデルでは、数値計算が膨大になるため、計算時間の簡略化及び計算

日程：2020年11月27日（金）、12月11日（金）、
12月18日（金）、12月20日（日）、
2021年1月15日（金）

結果の可視化のためにシミュレーションの実行環境はgnuplotとGoogle Colaboratoryで構築しました。

（教育推進部教授 山本敏幸）



研修の様子

教学IRプロジェクト報告

遠隔授業アンケート、対面授業アンケートを実施しました

今年度、本学では、春学期の間は全面的に遠隔授業が実施され、秋学期には原則として対面授業が再開されました。緊急対応として実施された遠隔授業と、通常とは異なる状況で実施された対面授業の経験を今後の教育実践に活かすため、教学IRプロジェクトは、遠隔授業を受講した学生、遠隔授業を実施した教員を対象とした遠隔授業に関する調査と、秋学期に、遠隔授業を経験した上で対面授業を受講した学生に、改めて対面授業に関する調査を、それぞれ7月と12月に実施しました。その結果、例えば、遠隔授業は、通学時間を節約できる点、自由な時間に受講できる点、予復習がしやすい点において高く評価されていたこと、対面授業は、授業内容に限らない話が聞ける点、他の受講生と交流できる点な

ど多面的な点において高く評価されていたことが明らかとなりました。他方、遠隔授業を経験したことで、対面授業だからこそ得られる経験について再考を求められる結果も示されました。調査の結果は学部や部局と共有されました。種々の授業形態の経験を糧に、今後は、より自由に授業形態

を利用しやすくなるはずで。そのために、種々の授業形態のメリットとデメリットを把握することが重要でしょう。詳細はこちら(<https://www.kansai-u.ac.jp/ir/archives/2021/02/2020-1.html>)からご確認ください。

（教育推進部特別任用助教 矢田尚也）

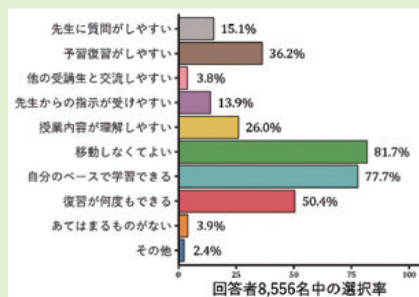


図1 遠隔授業を受講して「よかった」と思うこと

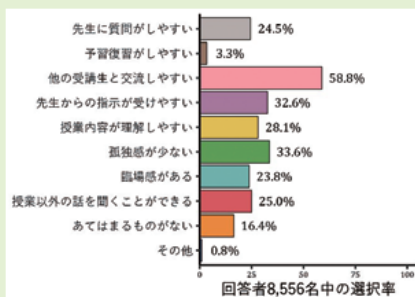


図2 対面授業を受講して「よかった」と思うこと

From CTL事務局

2020年度はコロナに翻弄された1年だった。生活は一変し、春学期には緊急事態宣言下で初めて在宅勤務を経験した。仕事をする背後で子供3人が騒ぐ、喧嘩する...それぞれの言い分を聞き、なだめ、時にテレビやお菓子でごまかしつつ仕事をする毎日。各家庭により

状況は違っても、教員や学生が家庭内で授業を実施したり受講したりするのはいかに大変なことか想像に難くなく、私が今できることをという思いで必死だった。

秋学期は再開した対面授業と遠隔授業双方のサポートに追われ、春学期とはまた違う大変さがあったが、キャンパスに戻った学生の笑顔は私の苦勞を

吹き飛ばしてくれた。

2021年、年が明けても不安な状況は続いているが、学生たちが笑顔で学生生活を送れるよう、そしていつの日か関西大学を卒業し社会へ飛び立っていく関大生の未来が光り輝くよう今後も全力でサポートしていきたい。

(Y.M)



KANSAI
UNIVERSITY

関西大学 教育開発支援センター Kansai University Center for Teaching & Learning

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35 TEL: 06-6368-0230 FAX: 06-6368-1514
www.kansai-u.ac.jp/ctl/index.html

発行日/2021年3月24日 編集・発行/関西大学 教育開発支援センター